★戦後７９年、八月の「空気」

◆敗戦から７９年の夏、日本はオリンピックや高校野球に沸いていますが、八月は厳粛な月です。その中で密かに進む「空気」の変化を感じませんか？

オリンピック後の世界の激変

◆３年前の２０２１年、コロナが猛威を振るう中で東京オリンピックが開かれました。このオリンピックの後、世界情勢が激変すると誰が想像したでしょうか。

◆東京オリンピックの後、コロナも終息に向かいほっとしていたところ、翌年（２０２２年）二月突然ロシアがウクライナに侵攻しました。そして昨年十月、ハマスの奇襲をきっかけにイスラエルがガザを攻撃し、僅か十ヶ月でガザの死者はウクライナの死者を上回ったと言われます。約七割が子どもや民間人です。

密かに進む戦争への傾斜

◆いま、オリンピックや高校野球の騒がしさの裏で、日本の「空気」が変わってきているように感じられます。それが密かに進む戦争への傾斜です。

◆二つの戦争を奇貨（きか）として（＝利用して）日本も戦争の準備をしなければならない、軍備を増強しなければならないという「空気」が広がってきています。

◆その顕著な変化が、防衛費の国内総生産（GDP）比２％への増額や琉球弧の軍事態勢準備、沖縄・辺野古基地建設の強行などです。そして不気味なのが憲法九条改正の動きです。奇妙なのはそれに対する国民の反応の鈍さです。

目を覚まし、耳をすまして敏感になろう

◆反応の鈍さは、今さえ良ければ・金さえあれば・自分さえ良ければいいという利己的で無責任な考えの裏返しではないでしょうか。

◆フランスのフランク・パブロフという人が書いた「茶色の朝」という無関心がもたらす結果を風刺した童話があります。（２００３年、大月書店）

◆茶色はナチスを暗示しているのですが、国が国民の自由と権利を奪ってゆく政策に対して、国民はとりあえず三つの「さえ」がみたされればいいと高をくくって生活しています。

◆そして気がついたときには、取り返しのつかない「茶色の朝」（ナチが支配する世の中）になっていたという物語です。

◆昔、炭鉱夫は空気の変化に敏感なカナリヤを連れて地下に入ったと言われています。私たちもカナリヤのように敏感に「空気」の変化に気をつけよう。

二〇二四年八月十一日（日）護憲平和行進（通算六九〇回目）
★浜松市憲法を守る会　事務局　浜松市中央区紺屋町三〇一一一五
月例護憲平和行進　毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

日本国憲法「第二章　戦争の放棄〔戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認〕

第九条　日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。